

省力化及びコスト削減に向けた給餌方法の検討

～2種類の飼料における間欠給餌の比較～

加地奈々・青柳敏裕

ニジマスを週3日給餌と週5日給餌の異なる給餌間隔で2種類の飼料を用いて飼育成績を比較した。週3日給餌は高魚粉飼料においては給餌率表の1.4倍の給餌率及び飽食給餌いずれも週5日給餌と成長は同等で飼料効率は高くなったが、低魚粉飼料においては飽食給餌で成長が劣った。週3日給餌は省力化及びコスト削減効果の高い給餌方法として有望であるが、供試飼料によりその効果に違いが見られたことから普及にはさらなる検討が必要である。

迅速なヨーロッパウナギの判別方法の開発（短報）

藤原 亮

形態のみでは同定の難しいヨーロッパウナギとニホンウナギを簡便に判別するため、体表粘液からDNAを抽出し、種別判別可能か検証した。実験の結果、両種を識別可能な種特異的プライマーを設計し、ウナギから採取した体表粘液のみを用いた迅速な種別判別が可能となった。この新たな手法により、従来数日間を要していた種の同定が半日で可能となり、解析費用の削減と作業時間の短縮による駆除作業の効率化が期待される。